

〈マルサス型結婚〉が歴史事実であるとマズイか？

山田昌弘 『近代家族のゆくえ』 その1

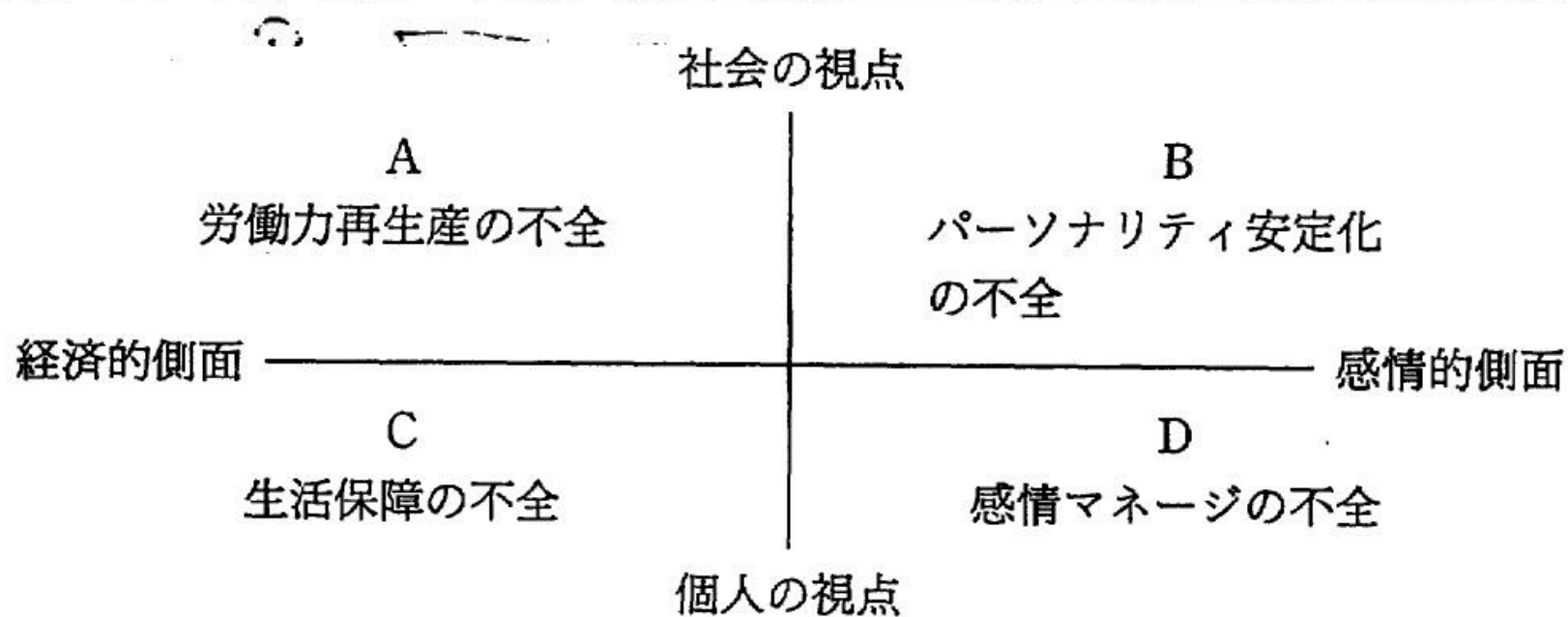
鈴木繁夫
名古屋大学国際言語文化研究科

近代家族のアイデンティティー

- ◎ 近代家族への思い込み
 - ＞ 抑圧装置としての家族
- ◎ 近代家族の基本性格
 - ＞ 家内領域と公共領域
 - ＞ 感情・経済と社会・個人という軸

表3 近代社会の公私の分離

公	公共領域	市場の必要性からくる労働の場
私	家内領域	理念上の自由な活動の領域 + 生活上の必要性からくる労働の場



二つの原則

◎ 自助原則：負担者

> 家族は

(1) お互いの一定の生活水準の確保

(2) 労働力の再生産に責任を負う。

> 系：他人の生活には直接責任を持つ必要がない

◎ 愛情原則：受益者

> 家族はお互いの感情マネージ（情緒的満足、不満処理）の責任を負う。

> 系：他人・社会は感情マネージの直接責任を持つ必要がない

近代家族の危うさ

- ◎ (A)社会システムの機能不全：
 - > (1)労働力再生産の不全[経済・社会軸]
 - > (2)パーソナリティ安定化の不全[感情・社会軸]
- ◎ (B)生活世界における不満噴出
 - > (3)生活保障の不全[経済・個人軸]
 - > (4)感情マネージの不全[感情・個人軸]

家族の予定調和仮説

- ◎ (1) (A)を機能させると (B)の不満が消える
- ◎ (2) (B)の不満を消すことが、(A)を機能させる

および

- ◎ (3) (A)(1)を解消することが、(B)(4)になる
- ◎ (4) (B)(4)を行うことが、(A)(1)を解消する

山田が記述していない他パターン (1)

- ◎ (5) (A)(2)を解消することが、(B)(4)になる
- ◎ [学校が家庭指導をすることで、家庭は愛情に包まれる]
- ◎ (6) (B)(4)を解消することが、(A)(2)になる
- ◎ [家庭に愛情があれば、善い社会人が多く誕生する](林道義の立場)

山田が記述していない他パターン (2)

- ◎ 7) (A)(1)を解消することが、(B)(3)になる
 - > [夫の健康管理をしっかりとすることで、収入が安定する]
- ◎ (8) (B)(3)を解消することが、(A)(1)になる
 - > [生活保障給付金を出すことで、働けるようになる] (ニューエコノミーの立場)
- ◎ (9) (A)(2)を解消することが、(B)(4)になる
 - > [会社が人間を徹底管理すれば、辛抱強い人間になれる] (官僚主導型)
- ◎ (10) (B)(4)を解消することが、(A)(2)になる
 - > [家庭でしつけがしっかりしていれば、不良・やくざは出てこない] (心学型)

近代家族の危うさの様相

- ◎ (1)再生産過程自体の不安定
 - ①家族内に再生産の責任が果たせないメンバーが登場する可能性
 - ②家族内で責任を引き受ける動機づけの問題が生じる
- ◎ ①が現実化した場合の正当性はどこに？
- ◎ ②が不純な動機であっても正当といえるか？
- ◎ 山田の結論：家族は機能面から見ると「政治的」な場である

近代家族をささえる装置

- ◎ 愛情というイデオロギー：
 - > 家族責任を負担することは愛情表現→愛情強制の圧力
 - > ジェンダーというイデオロギー：
 - ・ 女性は情緒的存在である→女性は家事労働と感情マネージの二つを抱え込む
 - > 近代国家というイデオロギー：
- ◎ 家族の機能事態への介入
- ◎ 家族の欲求自体への介入をしてもよい

近代家族の基本性格と装置

◎ 性格

- > ① 外の世界から隔離された私的領域
- > ② 家族成員の再生産・生活保障の責任
- > ③ 家族成員の感情マネージの責任

◎ 装置

- > ① 愛情と家族責任を結ぶイデオロギー
- > ② ジェンダーの神話と母性愛のイデオロギー
- > ③ 国家による介入

個々の家族の特徴

- ◎ ①小集団で公共領域から隔離されている。
- ◎ ②生活を保障し、労働力再生産を行っている。
- ◎ ③情緒的満足、情緒的不満の処理を行っている。
- ◎ ④行動の動機づけに「愛情」が用いられる。
- ◎ ⑤男性-仕事、女性-家庭の憧別役割分業が行われている。
- ◎ ⑥国家の制度に順応している。

近代家族の成立と形

● 成立

- > ①社会が「近代家族」を前提として構成されている (制度レベル)
- > ②実際の家族が近代家族の特徴を備えている (実態レベル)

● 形

- > (1)再生産
- > (2)感情マネージ

の両者の責任を負う単位が普及する。

● 近代家族とは、この二つを同時に行う装置。

● ヨーロッパにおける近代家族形成の原型はブルジョワジーにある。

● この原型はそのままでは労働者層に広がらない。

● 近代家族システムが定着するためには、国家などによる制度的誘導が不可欠

近代家族と愛情の諸相

- ◎ 近代社会における愛情の意味
- ◎ 感情体験：「状況や環境、関係を評価し、その評価に従って、身体的興奮を伴う行動欲求が生じる過程」
 - > ①感情体験は、通常の状態とは異なった状況の認知によって開始される。
 - > ②認知された状況評価には、身体的興奮が伴う。
 - > ③身体的興奮を伴った評価は、行動欲求を内包する。

感情社会学モデル:

- ◎ 感情の表出 Scheff
- ◎ (1) 抑制する規範：人前のキスしない
[Goffmanの印象操作]
- ◎ (2) 適切性という規範：葬式は悲しい
[Hochschildの感情ワーク]
- ◎ (3) 感情体験があることへの価値付与：自己嫌悪を感じられる [心理カウンセリング]
- ◎ (4) 特定感情体験への価値付与：権威は臭い
[マスコミ]

愛情モデル

- ポロク：子どもをかわいがった実例を紹介し、子どもへの愛情は存在したと主張
- アリエス：「子どもを愛さなくてはならない」という感情に関する規範が存在しないことをもって、子どもへの愛情がないと主張
- (1)コミュニケーションとしての愛情
- (2)記号としての愛情
- 病理：
 - コミュニケーションとしての愛情よりも、愛情という「記号」を得るため、つまり、愛情であると納得できる状況(愛情というコトバでテベリングできる状況) を求めてしまう

愛情の規範化：感情革命 Shorter

- ◎ 近代化とともに、三つの領域、
 - ◎ 〔①恋人-夫婦、②母子、③家族〕 で、
 - ◎ 感情を優先すること、つまり、自発性と感情移入を表現することが増大した。
-
- ◎ ①ロマンティック・ラヴ
 - ◎ ②母性愛
 - ◎ ③家族愛
 - ◎ という言葉で把握される感情が増大。

感情革命への反論：

- ◎ 感情は、言葉やその感情が引き起こすとされる行動などの実態だけでは把握したことにはならない。
- ◎ 愛情というコトバでレッテルが貼られたからといって、実際コミュニケーションとしての愛情が生起しているかどうかはわからない
- ◎ **山田流解釈**
 - 体験と記号としての愛情は、必ずしも一致しない。
 - 近代社会で特徴的なことは、家族の中の出来事を「愛情」という言葉で語りはじめたことそのものにある。
 - 家族の中でなされるあらゆることを、愛情がある/ないという基準で判断するようになる→愛情に反する感情は表出することはもちろん、不快な感情を感じることで自体がよくないこととされる。
 - 人びとは、家族に愛情があるように「ふるまう」ことを強制されたために、愛情に動機づけられていると観察される行動が増大